CDOメッセージ

先進のデジタル技術を活用した ベスト・プラクティスの実践により、企業価値の飛躍的増大を図ります

執行役シニアバイスプレジデント
チーフデジタルオフィサー（CDO）
市村 雄二

新しい全社的組織コンセプトである「One Company, One Team」は、三菱ケミカルグループにおけるDX実現の鍵です。

これまでの組織体制では、各法人や事業グループが高い独立性を持って事業を運営していました。このような状況では、ビジネス・プラクティスはローカル規模で採用され、品質や標準化の面でばらつきのある結果となり、また技術的・組織的な理由からデータ共有も困難となります。

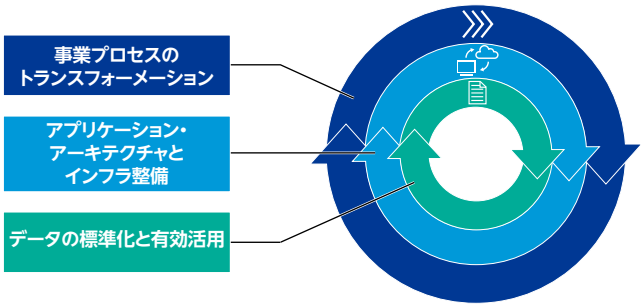
当社の新しい経営手法の中核は、グローバルなベスト・プラクティスを適用して、異なる組織間のコミュニケーションの壁を取り払うことにあります。こうした改革の一つの側面が、当社全体の変革を推進する権限を持つ、より強力なコーポレート・デジタル機能の実現です。

あるべき姿を明確化しベスト・プラクティスを追求

このセクションで触れたように、私たちの出発点はビジネス・プロセスそのものです。望ましい「あるべき姿」のビジネス・プロセスを定義することを優先し、ITソリューションとインフラのサポート支援は次のステップと考えています。

主要なビジネス・プロセスをきちんと評価し、グローバルなベスト・プラクティスを採用し、可能な限り標準化を進めることを優先します。プロセス全体の10%には、ビジネスの優位性や競争優位性を鑑み、カスタマイズしたソリューションを採用します（これは規則というより、その程度の例外が生じることを想定したものです）。そして、あるべき姿として設計されたビジネス・プロセスを基礎に、アプリケーション・アーキテクチャを設計・実装し、データとインフラの方針を確立します。同時に、クラウド・コンピューティング、モバイル機器および次世代ネットワーク技術がもたらすメリットを最大限に活かすため、積極的に技術・設備の最新化も行っていきます。これらは当社において、以前にはなかったシナジー発揮のチャンスだけでなく、コスト効率の点からも、ビジネスに大きなメリットをもたらすと考えます。

DX施策を通じて企業ビジョン実現へ

最後に、先進的なデジタル技術は、私たちのビジネスに革新的なインパクトを与える可能性があります。材料化学に応用されているマテリアルズ・インフォマティクスや品質検査におけるAI活用は、すでに大きな事業価値を生んでいます。また、量子コンピューティングといった、急速に発展している技術の開発にも積極的に関わっています。先進技術と、当社を横断して最適・標準化されたビジネス・ソリューションの戦略的配置をかみ合わせることで、DXは、私たちの新経営方針「Forging the future 未来を拓く」の達成に重要な役割を果たすでしょう。

デジタライゼーションのサイクル